

# 新スタジアムの需要推計手法について

2014.9.4

## 【概要】

- ・新スタジアムの需要推計においては、既存施設（エディオンスタジアム）よりもアクセス利便性が向上し集客力がアップする効果を検討した。なお、施設自体、イベント自体の魅力はこれまでと同一のものとして想定した。
- ・具体的には、エディオンスタジアムにおける居住エリア別の来場者数データをを用いて需要予測モデル（商圏モデル）を作成し、これをもとに新スタジアムの需要推計を行った。
- ・なお、モデル作成にあつては、以下のデータを活用した
  - ・居住エリア別来場者数：大阪体育大学実施の観戦者アンケート調査結果を参考に、区別ファンクラブ会員数から設定
  - ・居住エリアからの移動費用：地図検索サイト「グーグルマップ」、交通検索サイト「ナビタイム」を活用して設定。なお、利用交通手段については、大阪体育大学実施の観戦者アンケート調査結果、「広島市交通実態調査（平成20年）」結果を活用

## 【需要予測手法】

- ・新スタジアム整備によって各エリアからのアクセス利便性（移動費用）が変化し、居住エリア別の来場頻度が変化することも想定される。
- ・作成した需要予測モデル（下記参照）を用いて、新スタジアム（都心（中央公園、旧広島市民球場）および広島みなと公園）における居住エリア別の来場頻度を算出し、それに各エリアの人口を乗じることによって来場者数を算出、これらを合計することによって、新スタジアムの来場者数を推計した。

(新スタジアムへの居住エリア別の来場頻度)

$$= 0.0078610 \times \exp(-0.0006508 \times (\text{各居住エリアから現行スタジアムまでの移動費用}))$$

(R<sup>2</sup> = 0.9017687)

(新スタジアムの来場者数) =  $\Sigma$  ( (各居住エリア別の来場頻度) × (各居住エリア別人口) )